

先輩に續け

テーマに韓国・ネパール・イタリア・ケニアに合計1年間留学したことでした。

界のさまざまな組織との連携による地域／地球規模の課題解決を目指します。

私は今年の3月に総合科学部を卒業後、筑波大学経営学学位プログラムに入学しました。大学院では、計算社会科学の研究室に所属しています。ウェブで得られる大規模なデータを用いて、社会現象を定量的・実証的に観測・分析を行なうために、今はプログラミングを勉強しています。全く触れたことのない分野のため壁にぶつかることが多いですが、自分の強みにできるよう励んでいます。



北野 真帆 (きたのまほ)

- ① 所 属：京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科(大学院生)
② 略 歴：令和4年3月 総合科学部
社会総合科学科卒業
令和4年4月 京都大学大学院
アジア・アフリカ地域研究研究科入学

地域から世界を見る

私は京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科に進学し、アフリカの再生可能エネルギー開発が地域社会に与える影響について研究しています。きっかけは「トビタテ！留学 J A P A N」制度を活用して世界農業遺産の保全を

留学の最後は、新型コロナウイルス感染症が大流行はじめた時期でした。そして留学先で生活必需品や医薬品を調達できるか、あるいは自由な移動ができるかがわからない状況のなかで、必要な情報や相談窓口、支援者を確保しながら自分の判断で安全をまもる経験をしました。帰国後にこの衝撃的な経験を、テロ・災害・感染症などの「想定外」の事態に遭遇するリスクがある現代社会で生きるための学びに昇華したいと考えました。そこで、同時期に留学をしていた全国の大学生10人と『コロナ禍を生きる大学生…留学中のパンデミック経験を語り合う（昭和堂）』を出版しました。



前田 晏里 (まえだ あんり)

- ① 所 属：筑波大学大学院
人文社会ビジネス科学学術院
(大学院生)
② 出 身：和歌山県
③ 略 歴：令和4年3月 総合科学部
社会総合科学科卒業
令和4年4月 筑波大学
人文社会ビジネス科学学術院
経営学学位プログラム入学



大学院生活について

私の在籍する大学院は、受験資格に職務経験が必要となっていますが、私は在学中に立ち上げた株式会社 K A I が適用され受験をすることになりました（会社は既にクローズしました）。



筑波大学入学式



大学の同期と

メッセージ

徳島大学入学当時には起業や院進学をするつもりはなく、本当に偶然の連続でここまで進んできただと感じています。大学では色々な活動に挑戦しようと思い、様々なことにアンテナを張っていたことが転機につながったのだと思います。自分の人生の選択肢を狭めすぎることなく、一歩踏み出すことで、伏線が張られることがあるかもしれません。偶発性を楽しみながら、みなさんが納得できる大学生活を送れるこことを祈っています。

起業経験と受験について